

The Bullet 誌

December 13, 2021

Prabir Purkayastha

「貧しい国々が緑色帝国主義に屈しないわけ」

Why Poorer Nations Aren't Falling for Green-Washed Imperialism

<https://socialistproject.ca/2021/12/why-poorer-nations-arent-falling-for-green-washed-imperialism/>

リード

地球温暖化と戦うことは、すべての国に正味ゼロの炭素排出への道を提供することだ。しかしそれだけではない。それは世界中の人々のエネルギー需要を満たすための最善の方法を見つけることでもある。

現在の環境問題を考えると緊急の必要性となっている化石燃料は、世界の人たちが生きていくための糧でもある。

だから、球温暖化と戦うことは、貧しい国々が電力生産のために何を用いるのかを明示することでもある。そしてそのためにどのくらいのコストがかかるのか、それを負担するのは誰なのかを明示することだ。

今回の COP26 は、それらのことをまったく示していない。先進国にその気があるのかを疑わざるを得ない。

欧州連合と英国はアフリカの人口の半分未満だが、アフリカの 2 倍以上の CO2 を排出している。米国の人口はインドの 4 分の 1 未満だが、2 倍の炭素を排出している。

化石燃料の廃止という重荷

再生可能エネルギーからの電力コストが化石燃料からの電力コストを下回ってきている。だから金持ちであれ貧乏人であれ、すべての国が化石燃料を完全に段階的に廃止し、再生可能エネルギー源に移行することが可能になるはずだ。

これは朗報だ。

しかしその際念頭に置かなければならないのは、現在化石燃料プラントから得ているのと同じ量のエネルギーを再生可能エネルギーから得るためには、その3倍または4倍の発電能力を確保しなければならないということだ。

理由は簡単だ。再生可能発電が“フル稼働で継続的に発電できる電力”（設備利用率）は化石燃料プラントの3分の1ないし4分の1だからだ。

風がいつも吹くわけではない、太陽がいつも輝いているわけではない。

つまりこういうことになる。化石燃料プラントから得られるのと同じ量の電力を生成するためには、それだけの投資をしなければならないということだ。

貧しい国々にお金を提供する約束をせずに、ネットゼロを誓うよう求める、そのような豊かな国々は、完璧な偽善者である。豊かな国々はOPECを振り返り、貧しい国々がネットゼロを約束した歴史的な会議だったと言うだろう。

「彼らは豊かな国々からお金を借りて**約束**を果たすべきだ。そうでなければ、**制裁**に直面することになるだろう」

これが豊かな国々の言い分だ。

石炭火発が敵視されるわけ

電力貯蔵は、2 番目の問題だ。日ごとの変動または季節的な変動のバランスを取るために、この技術は欠かせない。

2021 年、ドイツでは夏に風が大幅に減速し、風力発電の電力が急激に減少した。ドイツは石炭火力発電所からの発電量を増やすことで風力発電の低生産量のバランスを取った。

それがゼロバランスからの重大な逸脱であることは、この際無視しよう。

しかし石炭火発すらない国で、人はどうしたら良いのだろうか。石炭火発に頼るしかない国で、人はどうしたら良いのだろうか。

石炭を非難する先進国の論理には欺瞞がある。

たしかに同じ電力を生産する際に、石炭火発は LNG 火発より 2 倍の CO₂ を排出する。しかし LNG 火発の発電量が 2 倍なら、その国の CO₂ 排出量は石炭火発の国と変わらない。

エネルギーをめぐる偽善

米国の一人当たりのエネルギー使用量はインドの 9 倍だ。英国の一人当たりのエネルギー使用量はインドの 6 倍だ。

先進国は途上国の 3~4.5 倍の CO₂ を排出していることになる。それはいくらサステナブルの電気を使おうと関係がない事実だ。**肝心なのは先進国が電気の無駄遣いをやめることだ。**

もっと数字を並べよう。ウガンダや中央アフリカ共和国などのサハラ以南のアフリカの国々は、米国の 90 分の 1、英国の 60 分の 1 にすぎない。

なぜ、どの国がすぐに炭素排出量を削減するべきかではなく、「どの燃料をどう廃止するか」についてだけ話しあわなければならないのか。これは「一億総懺悔」の論理による先進国の浪費のツケ回しだ。

偽善について最後に触れるべきはノルウェーの偽善だ。

ノルウェーは北欧とバルト諸国とともに、「2025年までにアフリカやその他の地域での天然ガスプロジェクトへのすべての資金提供を停止する」よう世界銀行に働きかけている。

同時にノルウェーは北海油田で、石油とガスの生産を拡大しているのだ。

さいごに

温室効果ガスの継続的な排出を止めなければ、世界のどの国にも未来がないことは明らかだ。

しかし「エネルギーの正義」なしに気候変動に取り組むことは、たとえそれが緑色の服を着ていても、植民地主義の新しいバージョンにすぎない。

ラマチャンドランはこう述べる。

「世界で最も貧しい人々の背後で気候変動がらみの野心を追求することは、偽善的であるだけでなく、最悪の場合、不道徳で不公正な“緑の植民地主義”です」

.....
Prabir Purkayastha は、インドのデジタルメディア「Newslick.in」の創立編集者である。この記事も「Newslick.in」からの転載である。

グリーンウォッシング (greenwashing) は、環境配慮をしているように装いごまかすこと、上辺だけの欺瞞（ぎまん）的な環境訴求を表す。安価な“[漆喰](#)・上辺を取り繕う”とい

う意味の英語「ホワイトウォッシング」とグリーン ([環境に配慮した](#)) とを合わせた造語である。(ウィキペディア)